

単元名 5 論理を捉えて ―[討論]異なる立場から考える

配当時間 1時間

- 単元の目標 (1) 賛成・反対のそれぞれの立場の人が、根拠となる①～⑧の事実からどのような意見を述べるかを考えることができる。
- (2) 同じ情報を基にしたり、同じ観点で考えたりしても、立場によって異なる意見になり得ることに気付くことができる。
- (3) 進んで意見と根拠の関係について理解し、今までの学習を生かして異なる立場の人の意見を想定しようとする。

標準的な展開例

11210212_001

【準備等】国語指導CD

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 話題に対する投稿者の立場や意見を正しく理解し、自分の意見やその根拠を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★相手の考えを踏まえて、自分の意見を述べよう。 ○ 話し合いの基本的な心構えを理解する。 ○ 話題について関心をもつ。 ○ 「投書」(p.139)を読み、投稿者に「同意する」「反論する」の両方の立場で意見を考える。 ○ グループで意見交換する。 ○ グループごとに、意見交換で出た意見や反論をまとめて報告する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手意識をもつことが大切であることを確認する。 ・ 事前に「中学生にスマートフォンは必要か。」が話題であることを提示しておき、情報や資料を準備させておいてもよい。 ・ 教科書の例を参考にし、意見をノートや学習プリントにまとめさせる。 ・ グループで「同意」「反論」の立場を決めて5分程度話し合い、その後、立場を変えて再度意見交換を行うようにする。 【評】立場を意識して意見を述べる活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 説得力のあった意見や根拠、解決策や別の視点の意見などを全体で発表させ、交流させたい。

【備 考】

社会生活で求められる表現は、多くの場合、自らの立場と、そのような立場に立つ根拠を明確にした表現である。この単元では、根拠の働きに注目して、論理的な表現のあり方について学ぶことを目的とする。

また、論理的な表現では、一方的に自分の意見を述べるのではなく、他者の立場も尊重することで、多様な考え方に触れることができる。また立場の違う考え方からの反論を予想することで、論理に深みが増し、説得力も高まる。根拠の確かさとともに、そうした視点からも、論理の展開のしかたを確認させたい。

討論会は、いろいろな立場の考え方を知ること、自分の考えを深めたり、広めたりすることに役立つ。それは、自身の言語能力を高め、今後の学級・学校での話し合いに活用することができるであろう。また、「根拠の適切さを考えて書こう」では、文章構成を学ぶ。自分の立場を最初に述べ、意見や根拠を述べていくことも、話し合いや意見文を書くには必要なことである。